

事前申込不要・入場無料

同志社教育講演会 2015

グローバル化時代の^{ボーダー}国境とは

— ニッポン列島の端っこを歩いて、考えた

11月14日(土)

14:00~16:00
(13:30 開場)

同志社大学 今出川キャンパス
良心館 305 番教室
(良心館は地下鉄今出川駅北改札と直結)

同志社教育講演会は、どなたでも自由にご参加いただける講演会ですので、みなさまぜひご参加ください。

<講師からのメッセージ>

私が所属する同志社大学グローバル・スタディーズ研究科は、世界が直面する国境を超える地球規模の問題を考えることを目的に5年前に発足しました。でも国境というものが地球から消えたわけではありません。

いまシリア難民がある時は国境を超え、あるいは国境に阻まれ、漂流を続けています。日本の周りを見ても、国境というものを改めて意識させられるような問題が頻発しています。島や海の境界をめぐる摩擦、外国漁船のサンゴやサンマの乱獲……。

そこでニッポン列島の東西南北の端っこを歩いてきました。そこに住む人々は、領土・主権にかかわる問題の複雑さを理解したうえで、「海の向こう」との国境を超えた歴史的なつながりを、これからも大事にしたいと願っていることがよくわかりました。

※私が現地で撮影した写真を見てもらいながら話を進めます。



講師

加藤 千洋 氏

【講師プロフィール】

同志社大学大学院
グローバル・スタディーズ研究科教授

1972年3月、東京外国語大学卒。同年4月、朝日新聞社に入り、論説委員、外報部長などを経て2010年春まで編集委員。この間に北京、バンコク、ワシントンなどに駐在。04年4月から4年半、「報道ステーション」(テレビ朝日系)でコメンテーターを担当。BS朝日「にほん風景遺産」では風景案内人を担当。10年4月から現職。80年代初めに中国・遼寧大学に留学し、90年代なかばに米ジョージア州ホプキンス大学SAIS客員研究員をつとめる。一連の中国報道で99年度ポーン上田記念国際記者賞を受賞。

■ 主催：同志社教職員組合連合

■ 後援：学校法人 同志社

■ 連絡先： <電話> 075-251-4413

<Email> doren@ma1.seikyou.ne.jp